

事業案内

2023(令和 5)年度事業報告

2024(令和 6)年度事業計画



社会福祉法人
千葉いのちの電話

24時間年中無休
相談電話 043-227-3900

CONTENTS

ごあいさつ	1
千葉いのちの電話の理念	2
2023（令和5）年度事業報告	3
I. 相談事業報告	
(1) 電話相談事業	3
(2) インターネット相談事業	10
(3) 対面相談事業	11
(4) 自死遺族支援事業 わかちあいの会「ひだまり」	12
II. 養成と研修	15
III. 公開講演会	16
IV. 活動報告	16
V. 他機関との連携	17
2023（令和5）年度 決算報告	18
2024（令和6）年度 事業計画基本方針	21
2024（令和6）年度 事業目標	21
千葉県いのちの電話協会	22
役員名簿	23
千葉いのちの電話役員名簿	
研修専門家部会名簿	
千葉県いのちの電話協会役員名簿	
ご支援のお願い	

ごあいさつ



社会福祉法人 千葉いのちの電話

理事長 友田 直人

2023（令和5）年度も幅広い県民の皆様のご支援を賜り、ここに千葉いのちの電話の事業報告並びに2024（令和6）年度の事業計画をご報告できますことを深く感謝申し上げます。

コロナ禍も昨年5月の5類への移行に伴い、日常を取り戻しつつあった1年でしたが、私たちの電話受信件数も一昨年度の16,093件から18,481件と増加し、ほぼ従前の件数に戻ることができました。この間、相談員はご家族を含め様々な不便と緊張に耐えながら、限られた時間で、今つながりを求める多くの人に十分こたえることができていないことに悩みながら、活動を続けて参りました。早く平常に復帰しなければ、との思いをやっと皆の努力で実現できた年であったともいえます。

一方、新規のボランティア養成の応募者は24人と、それまでの2年間の増加に比し落ち着いた感がありますが、比較的若い方やお仕事をもちながら余暇を役立てたいという方々が増えています。地味ではありますが、自殺予防という大切な活動にボランティアとして志願されようとのお志には頭が下がる思いです。結果、現在200名を超える相談員が毎日相談活動を担ってくれています。

2023年の統計では、4年連続して増加していた女性の自殺が減少に転じたこと、一方男性では2年連増の増加となってしまったこと、児童生徒の自殺が2年連続で500人を超えたことなど、が挙げられています。社会全体として更に手厚い対応の必要性を痛感します。また未成年の自殺者数が増加していることは私たち大人全員の責任ととらえなければいけません。

残念なことでもありますが、いのちの電話もこれからも社会の要請に応えてゆく努力が求められるでしょう。例えば手段として電話だけでなくSNSなど新しい伝達手段の増加に対しても対応してゆく必要があります。自分が変わることには勇気と努力が必要ですが、それが組織の活力に繋がると信じております。

今年度も、私たち相談員一人ひとり、様々な問題をかかえ生きることの苦悩する人に寄り添い、傾聴と共感で応える、という基本理念を常に忘れず、地道に相談活動に全力を尽くすことにより社会へ貢献して参りたいと存じます。

引き続き千葉いのちの電話に対するさらなるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

千葉いのちの電話の理念

千葉いのちの電話はかわりを求め、なんとか対処しようと苦悩している人たちに「私たちがここにいるよ」と表明し、寄り添いかかわりを求められる存在でありたいと望んでいます。そのために傾聴を基本の姿勢として、時には自殺まで思うほどの精神的危機にある人に寄り添い、対等な人間としてかわりを持ち支え合う相談活動をしています。また、使命の大きな柱である自殺予防のため、裾野の広い自殺予防活動を行います。

相談援助活動の4本の柱

電話相談

043-227-3900
24時間365日
年中無休

わかちあいの会
- 自死遺族支援 -

対面相談

- こころの相談室 -
予約専用電話
043-222-4331

インターネット
相談



◆ 千葉いのちの電話の歩み

・ 設立準備委員会発足	1988年 1 月	・ 社会貢献者表彰	2010年10月
・ 千葉いのちの電話開局	1989年10月 1 日	・ 「震災ダイヤル」参加	2011年 3 月
・ 千葉県いのちの電話協会発足	1990年10月20日		～2013年 9 月26日
・ 社会福祉法人設立認可	1993年12月28日	・ 「ナビダイヤル」参加	2013年 3 月
・ 第22回いのちの電話相談員全国研修千葉大会・		・ 千葉県社会福祉賞受賞	2013年12月25日
第10回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際		・ 厚生労働大臣表彰	2014年 9 月27日
会議開催	2001年 6 月13日 ～16日	・ 開局25周年記念式典	2014年10月 1 日
・ 千葉市社会福祉功労表彰	2005年10月	・ 千葉県いのちの電話協会25周年記念式典	2015年 9 月30日
・ 自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」を開始	2006年11月	・ 開局30周年記念式典	2019年10月 1 日
	2007年 6 月 1 日	・ コロナ禍対応「毎日フリーダイヤル」参加	2020年 6 月
・ 新会館（CIDビル）に移転	2007年 6 月 1 日	・ 千葉市地域社会貢献者褒賞を相談員が受ける	2022年 6 月
・ インターネット相談開始	2008年 7 月		
・ 対面相談開始	2009年 4 月	・ 開局35周年を向える	2024年
・ 千葉日報社会福祉賞受賞	2009年11月		

社会福祉法人 千葉いのちの電話 概況

(2024年4月1日現在)

【設 立】1989年10月 1 日

【法人認可】1993年12月28日

【組 織】理事：9名 監事：2名 評議員：17名 後援会役員：11名 監事：1名

【認定者累計】1,262名 【実動相談員数】211名 【活動ボランティア数】24名

2023（令和5）年度事業報告

（2023年4月1日～2024年3月31日）

はじめに

福祉サービスの提供として精神的危機に直面し、援助と励ましを求めている人びとと、主に電話という手段で対話し、健全な社会人として生活することが出来るよう援助し、その他にこれに関連するサービスを提供し、もって社会福祉の増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

定款（目的）第1条

この一文は、千葉いのちの電話の活動の使命や理念を表わし、定款の第1条に掲げています。私たちはこの目的の実現のために市民運動のボランティア組織ではありますが、責任ある組織として活動を継続して参りました。2023（令和5）年度の電話相談・自死遺族支援・対面相談・インターネット相談の4相談事業の活動の概要を中心に、ここにご報告させていただきます。

I 相談事業報告（2023年4月～2024年3月）

（1）電話相談事業

1. ダイヤルの種類と電話台数

1	千葉センターへの相談ダイヤル 043-227-3900	1989.10.1～ 現在電話台数4台（1台は予備使用）	
2	10日フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 0120-738-556 24時間8時～翌8時	2001.12～ 連盟事業に参加	1台
※	毎日フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」 0120-738-556 毎日16時～21時*	2020.7～ 連盟事業に参加 *千葉は水曜日（第2除）のみ	
3	ナビダイヤル電話相談 0570-738-556 2013.3～	2013.3～ 連盟事業に参加：通常電話に組込まれている	

2. 活動内容

24時間を5つの時間帯に分けて担当。5帯が深夜帯で21：30～7：30（半分づつ交代）

月	活動体制	活動帯数	実績者数 /実働人数	延べ人数	受信件数 (フリー帯)
4	1帯～4帯 金土（第2除）5帯、7日間 10日FD・毎日FD3日間	体制127/150（85%） 126/127（99%）	179/199	310	1,451 (4)

5	1帯～4帯 金土（第2除）5帯、6日間 10日FD・毎日FD4日間	体制131/155（85%） 131/131（100%）	174/196	309	1,463 (1)
6	1帯～4帯 金土（第2除）5帯、7日間 10日FD・毎日FD3日間	体制124/150（83%） 122/124（98%）	174/194	296	1,399 (4)
7	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	145/155（94%）	174/188	316	1,551 (10)
8	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	144/155（93%）	171/192	307	1,427 (1)
9	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	138/150（92%）台風	194/209	331	1,491 (5)
10	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	139/155（90%）	196/210	345	1,575 (0)
11	1帯～5帯 10日FD・毎日FD4日間	140/150（93%）	190/205	325	1,599 (8)
12	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	147/155（95%）	196/210	345	1,696 (0)
1	1帯～5帯 10日FD・毎日FD4日間	142/155（92%）	190/205	325	1,588 (12)
2	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	139/145（96%）配線工事	193/203	333	1,648 (0)
3	1帯～5帯 10日FD・毎日FD3日間	146/155（94%）	188/203	333	1,593 (0)
月平均 延べ人数323人 件数1,540件					18,481 (47)

2023年度は何と言ってもコロナが5類になったことによって、深夜帯（5帯）を7月から全面実施したこと。2022年度に断続的に体制を増やし、5帯は8月から一部実施でそれが11ヶ月も続いていた状況だった。実施日を段階的に増やすか、全面実施か話し合いを重ね、入る選択肢を増やすために全日実施とし入れないときは、やむなくクローズとした。但し、コロナ禍3年強の影響は大きく、その分年齢が高くなったこともあり、5帯が無理な相談員が増えた（届出50人）。5帯に復帰してもらうよう5帯キャンペーンを実施し、仮眠室のベッドも新しくするなど工夫した。

3. 特記事項

① 5帯キャンペーンの実施

◆5帯実施キャンペーンとして、談話室に毎月2ヶ月分の5帯カレンダーを張り、実施結果を示し、意識してもらうように努めている。

月	実施率	月	実施率	月	実施率
7月	74%	10月	52%	1月	58%
8月	68%	11月	70%	2月	79%
9月	60%	12月	74%	3月	71%

◆深夜帯実施の22センターにアンケートを実施した（8月）。

・どのセンターも共通して、高齢化や深夜帯不足。深夜帯は、もはや1セン

ターだけでは困難でブロックごとに連携して行うなどしたらという意見があった。

- ◆5 帯キャンペーン隊で千葉センターの5 帯課題への取り組み案を検討し、定例部会で話し合い、2 カウントトライアルについては個人アンケートも採ったが難点も多く、特に具体化したものはなかった。

- ②※フリーダイヤル電話機が2023.10.31（火）16時よりIP電話機に変わったことにより、使い方の普及に努めている。

4. 電話担当調整等

- ①継続グループ毎の担当調整割当週がある（認定後1 年目継続研修グループも含めた）
- ②「空き情報」連絡網による担当調整促進：役員発信→グループ連絡係→グループメンバー

5. 会議

- ①役員会議・毎月1 回及び必要によって開催。5 名
- ②定例会議（年度6 回）・役員と各継続グループ代表（20名）による定期的な会議。
5/20（土）、7/15（土）、9/16（土）、11/18（土）、12/16（土）半分は大掃除、2/17（土）

6. その他

- ①ボランティア連絡協議会への参加
- ②非常用備蓄品等の管理（補充・買い出し）等
- ③年末年始の電話担当慰労の茶菓子の用意

7. 課題

- ①昨今は働いている相談員が多く、役員等の相談担当以外の活動をしてもらうことを組織的に工夫しないと継続性が難しい。一部の人の負担が大きい現状がある。
- ②相談員数は微増しているが、月に1 回の相談員の割合が結構いる（30%位）。役割や事業活動兼務で1 回しかできない人が増えている。
- ③深夜帯（5 帯）については、やる意義を喚起していこうと考えている。

●電話相談事業概況 2023年4月～2024年3月末

受信数			累計		
2023年4月～2024年3月（365日）			1989年10月～2024年3月		
総受付件数	18,481件		総受付件数	728,553件	
一日平均	50.5件				
男	8,998件	48.7%	男	322,960件	44.3%
女	9,374件	50.7%	女	403,413件	55.4%
その他	109件	0.6%	不明	2,180件	0.3%

種別	総件数	男		女		その他	
		件数	%	件数	%	件数	%
通常	16,577件	8,113	48.9%	8,359	50.4%	105	0.6%
フリーダイヤル	789件	412	52.2%	374	47.4%	3	0.4%
*ナビダイヤル	587件	238	40.5%	348	59.2%	1	0.2%
*毎日フリーダイヤル	528件	235	44.5%	293	55.4%	0	0
総計	18,481件	8,998件	48.7%	9,374件	50.7%	109件	0.6%

自殺志向（通常・フリーダイヤル・ナビダイヤル・毎日フリーダイヤル）

	総受付数	念慮			危険			予告・通告		実行中	
		男	女	その他	男	女	その他	男	女	男	女
通常	1,460件	624	732	5	32	36	1	11	12	5	2
フリーダイヤル	155件	70	75	1	3	4	0	2	0	0	0
ナビダイヤル	115件	46	59	1	5	2	0	1	1	0	0
毎日フリーダイヤル	123件	46	68	0	5	4	0	0	0	0	0
総計	1,853件	786	934	7	45	46	1	14	13	5	2

*総受付件数18,481件のうち自殺傾向は1,853件（男850件・女995件・その他8）総受付件数の10.0%

●電話相談概要

様々な環境の中で、孤立・孤独感を抱えながら、自ら課題に向き合う相談件数は、増加傾向にあります。2023年4月から2024年3月までの電話相談概要は次のとおりです。

1. 受付件数

年間総受付件数は18,481件でした。2022年度の16,093件に対し、2,388件（14.8%）の増加となります。今年度の総受付件数は、コロナ禍前の2019年の17,607件を上回る件数となりました。

一日平均の受信件数は、50.5件です。

受信件数の内訳は、男性が8,998件（48.7%）、女性が9,374件（50.7%）、その他不明109件（0.6%）でした。男性の相談件数が増加しています。

2. 自殺傾向

総受信件数18,481件のうち、自殺傾向件数は1,853件（男性850件・女性995件・その他8件）で、総受信件数の10.0%に自殺傾向が見られました。

3. 相談内容別件数と自殺傾向

相談内容は、男女とも生き方、生きがい、孤独に関する「人生」の相談が多く、生きづらさを語られます。「人生」の相談件数は、3,863件で受信件数の20.9%を占めています。

次に多い相談が、病に関する「精神」の相談であり、続いてハラスメントやいじめなどの「対人」に関する相談、「家族」に関する相談となっています。

女性は、「人生」の次に「家族」、「対人」に関する相談の順になっています。男性は、「人生」の次に「精神」、「対人」に関する相談の順になっています。

自殺傾向件数では、「人生」に関する相談が628件、次に「精神」に関する相談が424件となっています。

自殺傾向率は、「人生」が16.3%、「教育」が15.6%、「経済」が15.1%、「精神」が14.9%となっています。「教育」、「経済」は相談件数が少ないが、自殺傾向が見られる相談となっています。

フリーダイヤルでは、同様の傾向が見られますが自殺傾向率が18.6%を示し、総受信件数に対する自殺傾向率（10.0%）より高い率を示しています。

4. 年代別相談件数と自殺傾向

年代別の受信件数は、50代が多く、全体の13.7%を占めています。次に40代、60代となります。

自殺傾向件数は、50代、40代が多く、全体の32.6%を占めています。自殺傾向率では、30代、40代がそれぞれ12.7%を示し、次に50代が12.2%を示しています。

5. 精神疾患有無別相談件数と自殺傾向

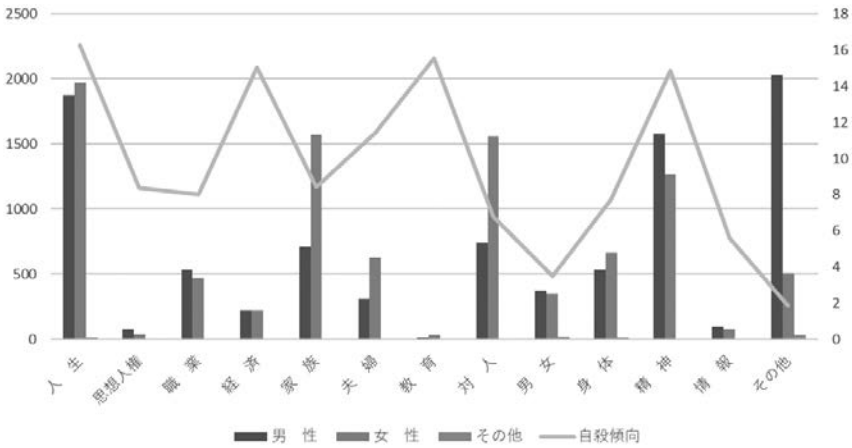
精神疾患を持たれる方は、「病歴あり・治療中・疑い」を含めると、総受信件数18,481件うち、8,464件で全体の45.8%を占めます。

現在「治療中」の方で、自殺傾向が見られる件数は、1,071件と高くなっています。

6. 自殺未遂歴

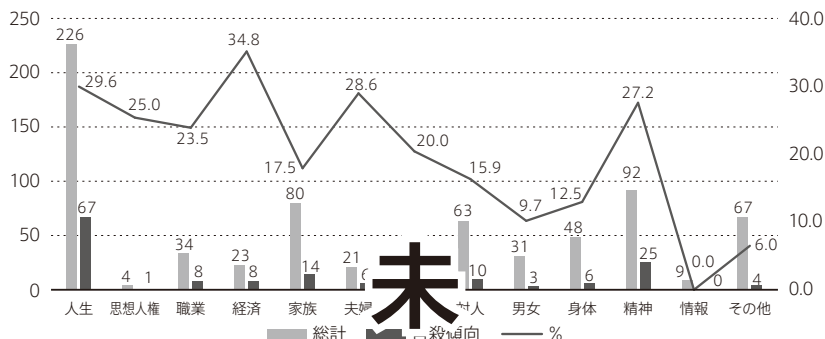
自殺未遂が、はっきりしているケースは、男性310件、女性383件、その他6件でした。総受信件数の3.8%の方に自殺未遂歴があることになります。

◆ 内容別件数と自殺傾向（通常・自殺予防・毎日FD・ナビダイヤル）（2023.4.1～2024.3.31）



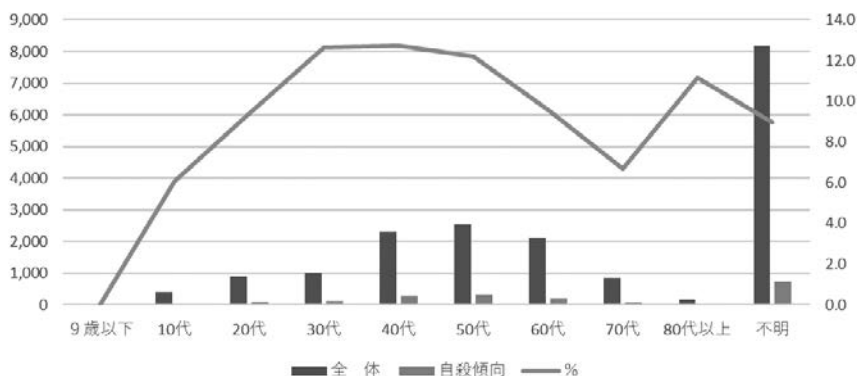
	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	総計
男 性	1,874	80	535	221	713	310	14	743	373	533	1,576	100	2,026	9,098
女 性	1,974	39	472	224	1,571	632	31	1,560	351	668	1,270	76	506	9,374
その他	15	0	2	0	2	1	0	9	21	13	8	2	36	109
計	3,863	119	1,009	445	2,286	943	45	2,312	745	1,214	2,854	178	2,468	18,481
自殺傾向	628	10	81	67	193	108	7	157	26	94	424	10	48	1,853
%	16.3%	8.4%	8.0%	15.1%	8.4%	11.5%	15.6%	6.8%	3.5%	7.4%	14.9%	5.6%	1.9%	10.0%

◆ 内容別件数と自殺傾向（フリーダイヤル）



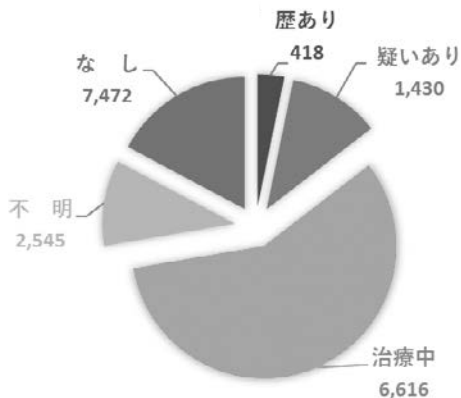
問題別内容	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	総計
男	137	1	14	18	27	13	4	30	20	22	60	7	53	406
女	89	3	20	5	53	8	1	33	9	26	32	2	14	295
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
総計	226	4	34	23	80	21	5	63	31	48	92	9	67	703
自殺傾向	67	1	8	8	14	6	31	10	3	6	25	0	4	153
%	29.6%	25.0%	23.5%	34.8%	17.5%	28.6%	20.0%	15.9%	9.7%	12.5%	27.2%	0.0%	6.0%	21.8%

◆ 年代別件数と自殺傾向（2023.4.1～2024.3.31）

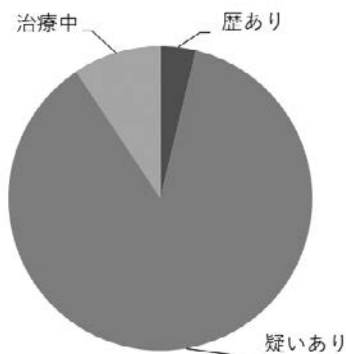


年代	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	総計
全体	0	410	906	1,003	2,308	2,539	2,106	854	188	8,170	18,481
自殺傾向	0	25	85	127	294	310	202	57	21	732	1,853
%	0.0%	6.1%	9.4%	12.7%	12.7%	12.2%	9.6%	6.7%	11.2%	9.0%	10.0%

◆ 精神疾患有無別相談件数



◆ 自殺未遂歴



◆ 精神疾患有無別相談件数 (2023.4.1～2024.3.31)

	歴あり	疑いあり	治療中	不明	なし	合計
男 性	142	601	3,252	1,345	3,658	8,998
女 性	275	826	3,351	1,177	3,745	9,374
その他	1	3	13	23	69	109
計	418	1,430	6,616	2,545	7,472	18,481
自殺傾向	60	209	1,071	194	319	1,853
%	14.4%	14.6%	16.2%	7.6%	4.3%	10.0%

◆ 自殺未遂歴 (2023.4.1～2024.3.31)

	あり	なし	不明	計
男 性	310	7,828	860	8,998
女 性	383	8,142	849	9,374
その他	6	84	19	109
計	699	16,054	1,728	18,481

(2) インターネット相談事業

この一年、部員数15名～13名（休務のため）で活動してきた。月7回の返信活動を担当者数3名～2名で継続することができた。

受信数はほぼ昨年と同程度であった。地域別、性別、年齢別についてもほぼ同様の傾向であった。20代～50代がほとんどであり、10代と高齢者の相談は少数であったことも同様である。相談内容についても、人生、精神、対人、職業、家族の順でありこの傾向もかわらない。精神疾患を抱えた方の職場での人間関係や、家族関係の悩みなどが多く寄せられた。また、頻回相談者に苦慮することもあった。

今年度は研修の一環として、グループSVを1グループ3～4人で行い、個々の相談文の理解や返信文の問題について上田先生の指導を受けることができた。継続研修は自主研修と上田先生、平田先生、中村先生、石川先生の協力を得て行うことができた。先生方によるテーマはメール相談の基本、青少年の自殺、引きこもり、発達障害などで内2回は公開とし、他の事業部の出席も可とした。また、Zoomも取り入れより参加しやすくした。新年度も「無理に何かをしよう、提案しようと思わず、傾聴の姿勢で相手を理解することに重きを置く」（上田先生研修資料より引用）ことを基本姿勢として学びを深め、ネット相談を継続していきたい。

インターネット相談統計（2023年4月～2024年3月）

地域別		性 別		相談回数	
千葉県	146	男	70	1 回	116
その他	53	女	137	2 回	75
不 明	47	不 明	29	3 回	55
計	246	計	246	計	246

■ 年代別相談件数

年代別	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不 明	計
件 数	0	9	55	53	28	44	10	0	47	246

■ 自殺傾向

自殺傾向	な し	念 慮	危 険	予 告	実施中	不 明	計
件 数	146	57	2	0	1	40	246

■ 相談内容別

相談内容	人生	人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	計
件 数	81	0	24	4	17	9	7	33	3	9	52	0	0	246

(3) 対面相談事業

2009年に対面相談を開始して以来、14年間の対面相談実施総件数は1,745件となった。

2023年度はコロナ感染も5類に移行し終息しつつあったが、引き続き対面相談に伴う感染リスクに配慮し、相談体制（3月末現在週3日）を維持してきた。対面相談実施件数は161件で、前年度（174件）の8.5%減となった。その内、印旛合同庁舎における自死遺族個別相談は10件（前年度2件）である。

男女別では、男性が55件（34%）、女性が106件（66%）と、前年度同様、女性が男性のほぼ2倍であった。年代別では、男女とも50代と60代の割合が高く、全体の58%を占めている。また70代では、男性0件（前年度2件）に対し女性17件（前年度7件）と、女性が急増している。相談内容別では、コロナ禍で1位となっていた「家族」（69件）が減り、「人生」「家族」「対人」の順となった。心の病や幼少期からのトラウマを抱え、今を生きるつらさ、先が見えない不安からの相談、何らかの生きづらさを抱えた家族の存在に悩み、苦しみ、居場所までなくした方からの相談などがあった。

地域社会での孤独は高齢化の進行とともにより深刻になっており、中高年の孤独・孤立は社会問題ともなっている。心の病を抱えた方からの相談も多い。誰もが安心してありのままを出せる場がここにあることをこれからも大切していきたい。

◆ 対面相談実施件数

年 度	実施件数
2009年～2022年	1,584
2023年	161
計	1,745

◆ 対面相談実施件数 男女別

年 度	実施総数	男	女
2023年	161 (0)	55 (0)	106 (0)

() は当日受付相談件数
※自死遺族個別相談10件含む

◆ 対面相談実施件数 年代別

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男	0	0	7	10	23	15	0	0
女	0	0	18	16	20	35	17	0
計	0	0	25	26	43	50	17	0

◆ 対面相談実施件数 相談回数別

1回： 33	2回： 15	3回以上： 113
--------	--------	-----------

◆ 対面相談実施件数 相談内容別

項目	人生	職業	経済	家族	対人	身体	精神	自死遺族
件数	51	0	0	47	31	0	10	22

◆ 対面相談実施件数 情報源別

情報源	地域新聞	HP	広報誌	3事業	公開講座	ポスター	その他
件数	32	63	13	25	0	0	28

◆ 自殺傾向

傾向	なし	念慮	危険	予告	自傷等
件数	156	5	0	0	0

◆ 自死遺族個別相談（於：印旛合同庁舎）

相談件数：10件	来談者数：10名
----------	----------

(4) 自死遺族支援事業 わかちあいの会「ひだまり」

◆ わかちあいの会「ひだまり」の活動報告

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行されて以降、感染対策が徐々に緩和されてアクリル板の使用やコロナ受付を設置すること也不再、コロナ前の状況に近づいているが、マスク着用のみ継続して行っている。最

近は、死別後間もない初参加の遺族が増えてきている。自死遺族にとって、自身のかかえる苦しみ、悲しみ、時には怒り等の感情を安心して語り、受け止め合うことができる安心で安全な場として、わかちあいの会の必要性を感じている。

◆ 自死遺族支援事業部研修・振り返り及びスタッフ会議

〈継続研修〉

- 4/ 3 わかちあいの会でのグループの果たす役割（末松先生）
- 5/ 1 わかちあいの会の進め方（末松先生）
- 6/ 5 わかちあいの会での事例検討（末松先生）
- 7/ 3 わかちあいの会の振り返りのあり方（末松先生）
- 9/ 3～4 〈宿泊研修〉 わかちあいの会・茶話会での問題点（末松先生）
- 10/ 2 わかちあいの会で大切にしていること（末松先生）
- 11/20 自死遺族への向きあい方（柳川眞諦氏）
- 12/ 4 わかちあいの会へのスタッフとしての向きあい方（末松先生）
- 1/23 KJ法で、自分を振り返る（森美加氏）
- 2/ 5 各自の1年間を振り返って（吉久小夜子氏）
- 3/ 4 1年間のまとめ（末松先生）

〈振り返り及びスタッフ会議〉

開催日：毎月第1月曜日 10：30～12：30

- ・[前半に振り返り] 前月のひだまりや茶話会の報告書をもとに話し合い、スタッフ間の共通理解を図る。疑問が残った課題については、講師に指導を仰ぐ。
- ・[振り返りの後でスタッフ会議] 各委員会等の報告や部内の報告事項を行うことと、部内での協議事項について話し合う。

◆ 令和5年度 自死遺族支援実施センター合同研修会（スタッフ3名参加）

- 10/21 講演「自死遺族とともに歩む」 講師：石倉 紘子氏
- 10/22 講演「愛しいあなたに逢いたい・・・」 講師：佃 祐世氏
- 令和6年2/10 CIDビルーZoomーにて（奈良いのちの電話担当）
講演「自死者と自死遺族への差別偏見を失くすには」 講師：田口 まゆ氏

◆ ミニ講演会・交流会

- 10/ 7 前半：講演「哀しみに寄り添い ともに生きる」 講師：森 美加氏
後半：講師を囲んで交流会
会場 千葉市生涯学習センター（参加者 18名）

◆ 第8期自死遺族支援事業スタッフ養成研修

- 10/17 「オリエンテーション」 末松渉先生
- 10/31 「わかちあいひだまりの歴史と活動」 高橋宏子相談員
- 11/21 「社会の視点から見た自死とは」 清水新二先生

11/28 「なぜいのちの電話が自死遺族支援に関わるのか」 西浦加代子先生
 12/19 「グループにおける傾聴と寄り添い」 木村登紀子先生
 12/26 「自死遺族わかちあいの会の役割」 末松渉先生
 1/16 「自死遺族の悲嘆の特徴」 吉久小夜子氏
 1/30 「まとめ」 佐藤俊一先生
 2/ 6 面接、判定 末松渉先生（3名が認定された）

◆ ひだまり開催と参加者数

年 度	開催回数	会場別参加者数（人）						累計	参加者内訳（人）	
		千葉	習志野	柏	君津	印旛	浦安		男	女
～2022	415	673	6	717	11	151	2	1,560	549	1,011
2023	24	117	—	46	—	15	—	178	72	106
計	439	790	6	763	11	166	2	1,738	621	1,117

◆ 茶話会開催と参加者数

年 度	茶話会回数	参加者数	参加者内訳	
			男	女
～2022	39	193	40	153
2023	4	13	6	7
計	43	206	46	160

◆ 2023年度 合計

会 場		開催数	参加者数	死別対象				
				子ども	親	兄弟姉妹	配偶者	その他
ひだまり	千葉	12	117	58	5	13	40	1（婚約者）
	柏	6	46	33	7	2	4	
	印旛	6	15	6	1	5	3	
	計	24	178	97	13	20	47	1
茶話会	柏	2	9	6	2	0	1	
	千葉	2	4	0	0	2	2	
	計	4	13	6	2	2	3	
合計		28	191	103	15	22	50	1

◆ 参加者の声

- ・ 何年たっても哀しみは消えないが話せることがうれしい
- ・ ここに来てやっと本当の自分になる
- ・ ほっとする場がほしい、以前の未りしたい
- ・ 周りのすべてが悪いと思う自分未い、ここにきて気持ちがわかってもらえる
- ・ 色の無い生活、いつかきれいな日々になるだろうか

Ⅱ 養成と研修

(1) 研修委員会

2023年5月24日、10月23日

- ・ 35期養成講座の募集と応募への対応について

2024年3月4日

- ・ 34期、3事業養成の認定について

(2) 研修専門家部会

4月29日、8月27日、10月2日、2月29日

- ・ 34期養成講座の進め方、判定、35期カリキュラムについて

(3) 研修ボランティア部会

1回 4月1日

- ・ 認定に伴う作業について

2回 5月6日

- ・ コロナ5類移行後の対応について

3回 6月3日

- ・ 4事業合同研修担当者のあり方について

4回 7月1日

- ・ リフレッシュ研修の所管について

5回 9月2日

- ・ 34期養成研修の進捗について
- ・ 35期応募状況について

6回 10月7日

- ・ 2024年度事業計画、予算案作成について
- ・ SNS相談プロジェクトについて
- ・ 松戸市からの相談員ケアの要請について

7回 11月4日

- ・ 電話以外の3事業の兼務活動について
- ・ 研修担当者の辞退について

8回 12月2日

- ・ 研修ボランティア部会総会の開催について

9回 1月6日

- ・ 電話事業と他3事業のあり方について
- ・ 35期養成研修体制について

10回 2月3日

- ・ 24期養成研修の認定について
- ・ 35期養成講座について

11回 3月2日

- ・ 研修ボランティア部会の開催方法について

Ⅲ 公開講演会

厚生労働省補助事業公開講演会「ひきこもりの真実」

講師：林恭子氏

日時：2023年10月1日

場所：千葉市文化センター

*広報活動として

Ⅳ 活動報告

(1) 理事会・評議員会の開催

(2) 運営協議会

1. 毎月開催
2. 各活動報告・見通しの共有と提議事項を協議する。主な検討テーマは次。
 - ① リスクマネジメント、大災害等の非常時の対応について
 - ② 表彰規程等の整備

(3) 事業委員会

1. 事業委員会の運用変更
 - 1) 運営協議会に4事業の役員がそれぞれ1名ずつ出席することで事業委員会の会議も含められることから、6月の運営協議会より実施された。事業委員会だけの会議は、必要な時に開催することとし、会議の回数軽減を図った。
 - 2) 2024年度からは、事業委員会の仕事を各事業が年度毎に順番に担うこととし、委員長や副の負担軽減を図ることとした。
2. 親睦会の開催
2024年2月12日（月休）13：30～16：00
内容：4事業活動内容の発表、「ピースボートの体験談」、茶話会
3. ガイドブック作成
新規分を作成し34期認定式にて配布、既相談員配布分に対しては改訂表を作成した。

(4) 総務財務委員会

- * 船橋市「自殺予防週間啓発パネル展」 参加（9/～9/19）
ポスター・チラシ・PRカード・リーフレットを掲示、配布。
- * 開局記念ウイーク（10/1～10/16）
 - ・ 玄関に花とプレート展示
 - ・ 談話室に目で見える「きた道」を掲示
 - ・ 「祝 34周年記念」誌発行
 - ・ 32, 33期生に「30周年記念誌」を配布
- * 船橋健康まつり出展（11/5）
 - ・ ポスター・チラシ・PRカード・リーフレット・ティッシュを掲示、配布。

・対面相談実施

＊2023年度認定式、永年表彰式、親睦会の開催（3月16日）

（5）ボランティア増強部会

1. 定期的部会の開催

2. 主な活動

①第35期ボランティア相談員募集のチラシと募集案内の配布（8月）

②第35期ボランティア相談員募集事前説明会の開催

◎応募者23名

③第35期は研修期間が従来の1年半から1年に短縮されたため、募集開始が半年繰り延べられた。

（6）広報啓発イベント部会

＊フリーダイアル公開講演会開催

2023年10月1日 タイトル「ひきこもりの真実」 講師・林恭子 千葉市文化センターにて

＊広報活動として

県内の「自殺対策担当」部署（10カ所）に配布
（ポスター・PRカード・リーフレットのセット）

＊2024年度フリーダイアル公開講演会開催に向け準備

・演題、会場、講師、日時決定

（7）各プロジェクト

①デジタル班養成：コロナ禍をきっかけに拡大したIT技術の利用だが、相談員全般への普及を目指す。録画、Zoom会議、講演会等のOJTを数回実施し、応援スタッフの拡充につながった。

②SNS相談検討：若年層の電話離れの現実に、千葉いのちの電話としてどう取り組むか、何ができるか、を実施機関や先行センターを通して勉強し、企画案をまとめた。2024年度中のトライアル実施を決定。

③MAP：清水理事の企画に丸紅財団の助成が実現。コロナ禍でのボランティア志望急増の現象、を各センターへのアンケート、相談員への聞き取り調査等を通じ考察し、今後の体制強化へつなげることが目的。11月完成し関係機関へ配布した。

（8）事務局

未

V 他機関との連携

未

未

2023（令和5）年度 決算報告

■貸借対照表（2024（令和6）年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	34,648,053	流動負債	620,237
現金	47,503	未払い費用	468,168
普通預金	30,752,550	預り金	142,294
事業未収金	3,848,000	職員預り金	9,775
立替金	0		
固定資産	170,365,875	負債の部合計	620,237
基本財産	103,075,417	純 資 産 の 部	
土 地	59,500,000	基本金	145,812,651
建 物	43,575,417	その他の積立金	59,595,762
その他の固定資産	67,290,458	修繕積立金	2,600,000
建 物	4,831,612	備品等購入積立金	9,000,000
構築物	1	ボランティア養成積立預金	5,772,800
器具及び備品	2,219,461	掌風会養成積立金	18,822,962
電話加入権	536,372	次期繰越活動増減差額	△ 1,014,722
ソフトウェア	107,250	（うち当期活動収支差額）	△ 3,808,559
修繕積立資産	26,000,000		
備品等購入積立資産	9,000,000	純資産の部合計	204,393,691
ボランティア養成積立資産	5,772,800	負債及び純資産の部合計	205,013,928
掌風会養成積立資産	18,822,962		
資産の部合計	205,013,928		

■資金収支決算書（2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日）

（単位：円）

	科 目	予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)－(B)
事業活動による収支	相談事業収入	11,151,597	11,656,620	△ 505,023
	経常経費寄附金収入	5,588,086	5,423,214	164,872
	受取利息配当金収入	445	691	△ 246
	その他の収入	676,000	429,000	247,000
	収 入 計	17,416,128	17,509,525	△ 93,397
	人件費支出	7,645,268	7,536,086	109,182
	事務費支出	10,849,867	10,189,433	660,434
	支 出 計	18,495,135	17,725,519	769,616
	事業活動資金収支差額	△ 1,079,007	△ 215,994	△ 863,013
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0	0
	施設整備等支出	485,840	246,400	239,440
	施設整備等資金収支差額	△ 485,840	△ 246,400	△ 239,440
その他の活動による収支	その他の活動収入	1,184,000	1,337,190	△ 153,190
	修繕積立預金・他支出	0	276,390	△ 276,390
	その他の活動資金収支差額	1,184,000	1,060,800	123,200
	予 備 費	780,906	0	780,906
	当期資金収支差額合計	△ 1,161,753	598,406	△ 1,760,159

前期末支払資金残高	58,314,003	33,429,410	24,884,593
当期末支払資金残高	57,152,250	34,027,816	23,124,434

監査報告書

令和6年5月9日

社会福祉法人千葉いのちの電話

理事長 友田直人 様

監事 大森 薫

監事 稲本 守次

私達監事は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度（2023年度）理事の職務執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各幹事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその付属明細書）について検討いたしました。さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調整を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

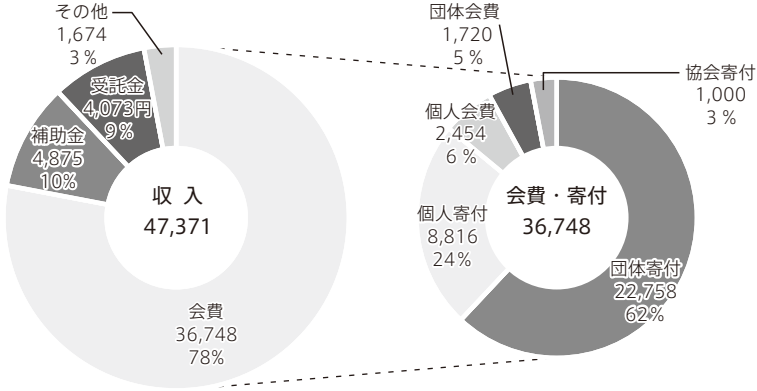
■2023（令和5）年度補助金等内訳

（単位：円）

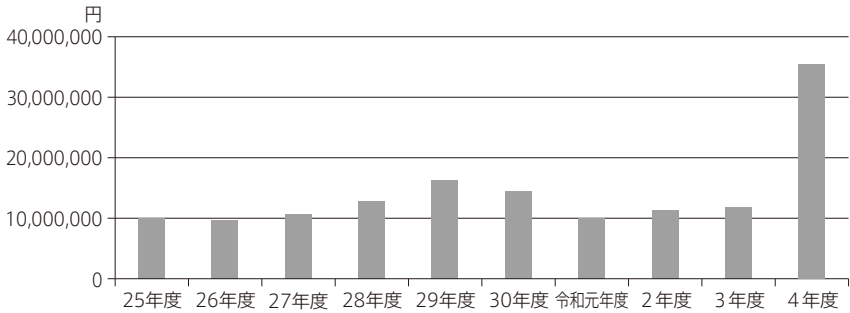
千葉県（電話相談員研修費）	1,300,000	自死遺族支援事業	
千葉県（コロナ補助金）	165,000	千葉県受託事業	1,748,000
千葉県（セーフティネット強化基金）	450,000	柏市	185,000
千葉市（電話相談員研修費）	500,000	計	1,933,000
千葉県社会福祉協議会			
千葉市（自死遺族支援）	138,768		
千葉県共同募金会	446,000		
丸紅基金			
日本いのちの電話連盟	935,852		
計	3,935,620		

財務報告

2022年度収入の内訳（単位：千円）



会費寄付合計金額（個人と団体）



令和4年度の収入は47,371,756円。このうち、会費が金額で昨年より2%減少。安定財源である会費の減少傾向は続き、目下の課題である。一方寄付金は遺贈等大口のお申し出を頂き金額で昨年比プラス25,418千円と大きく増収に貢献した。補助金は新規の調査研究を対象にした案件などあり昨年比86%増となった。その他収入は養成研修生が34期で減少したため40%減となった。

■大口団体寄付（5万円以上）ありがとうございました。

敬称略（アイウエオ順）

アローズエンジニアリング株式会社、上野社会保険労務士事務所、MDRTソニー会、カトリック西千葉教会、金坂医院、京葉銀行社会活動推進室、京葉銀行小さな親切運動推進本部、掌風会、（一社）生命保険協会千葉県協会、千蔵院、千葉県流通商防犯協力会、千葉興業銀行ともしびの会、千葉信用金庫、千葉大学医学部付属病院看護部、千葉西ロータリークラブ、千葉ゆうきのライオンズクラブ、千葉ロータリークラブ、中村古峽記念病院、長谷川化学工業、（有）やまあき、連合千葉、八千代東ライオンズクラブ

2024（令和6）年度 事業計画基本方針

1. 基本理念の浸透

精神的危機に直面し苦悩している人に傾聴を基本姿勢として寄り添う相談活動を通して、裾野の広い自殺予防活動を行う。これらは、善良な市民の自らの意思による無償の行為である。いのちの電話関係者はこの基本理念を共有し、浸透させること。

2. 千葉いのちの電話の一般県民への広い周知とボランティア確保

・自殺予防活動を目的とし活動するこの動きを、広く県民の一人一人に広報すると共にボランティアへの参加促進をアピールする。

3. 新組織の理解促進と定着

・法・社会・利用者・相談員等の要請にこたえるため組織・各内規等の整備を進める。
・内部での理解・改善・見直しを、対話を基に進める。

4. 施設整備の実施

・特に経年劣化に注意しながら、建物・設備の点検と整備の計画化。
・整備資金積立の実行。

5. 財政基盤の健全な強化

・安定的な寄附金収入の確保と拡大のため、維持会員を更に獲得する方法の検討と実施。
・特に新規の企業・団体・個人へ賛同を訴求する新たな手法を構築する。

6. リスクマネジメント活動の推進

・様々な非常事態を想定し、相談員や設備、組織を保護することと相談活動の安定的継続を目的に、対策のマニュアル化と相談員への周知を目指す。

7. 将来像の検討

・基本理念に基づき、社会の変化に対応した、将来の千葉いのちの電話のあり方を検討する。
・資質向上と研修体系のさらなる検討。
・SNSを活用するネット相談の手法の検討。
・若年層の相談のあり方の検討（被相談者及び相談員の可能性）。

2024（令和6）年度 事業目標

I 研修委員会

研修全般に関する方針策定、研修計画・予算案の承認
研修の課題への対応及び決定

(1) 研修専門家部会

研修に関する事項や課題について専門家の立場から協議・提言・提案を行う。相談員の判定・認定を行う。

(2) 研修ボランティア部会

研修専門家部会とともに、研修計画の策定、予算の作成、決定された研修の実施を行う。

II 事業委員会

適切な相談活動の維持・継続のための、直接的な施策の検討と実施。

すなわち円滑な相談活動のため、相談員への配慮をしつつ関係団体との調整を実施する。また、記録の整理・分析と保存、福利厚生、環境整備を実施する。各部会毎のテーマは次。

・電話相談事業部会：24時間体制確保と連盟連携の強化、電話相談担当の調整、相談環境の改善
・インターネット相談事業部会：非会話の特性を生かした特に若年層利用の拡大
・対面相談事業部会：地域への開かれた相談の場所として利用者の拡大
・自死遺族支援事業部会：コロナ禍以降の利用者に対し、わがちあいの会ひだまりの役割の充実

III 総務財務委員会

適切な相談活動の維持・継続を側面より支える活動
自殺予防の啓発、相談員の拡大、財務支援の増強等のため、広く県民に千葉いのちの電話の存在を周知し、理解と協力を仰ぐ。各部会毎のテーマは次。

・ボランティア増強部会：ボランティア募集と応募者の拡大
・広報啓発イベント部会：講演会の開催、協会のイベント支援による周知と財政支援
・財務総務部会：事業計画・予算案作成を中心に、健全な事業の遂行と財務基盤の拡張

IV 事務局

事業計画・予算に則し各事業の円滑な推進を図る。

2024（令和6）年度 一般会計予算

2024年4月1日～2025年3月31日

科 目	予算額
【収入の部】	(単位:円)
会費収入	4,500,000
補助金事業収入	3,842,000
受託金収入	4,065,000
寄付金収入	7,200,000
雑収入	1,210,500
	2,000,000
当期収入合計	22,817,500
【支出の部】	(単位:円)
人件費支出	8,069,500
事務費支出	14,637,778
予備費	110,222
当期支出合計	22,817,500

千葉県いのちの電話協会

「千葉県いのちの電話協会」は社会福祉法人千葉いのちの電話の後援会です。

千葉いのちの電話の財政的支援を主として各種支援事業（活動ボランティアによる手づくり作品の販売・チャリティバザーなど）を行っており、年2回開催するコンサートは収益事業であると共に、幅広く地域の皆様に千葉いのちの電話の活動にご理解とご支援をお願いする広報活動でもあります。1990年10月の結成から33年目を迎えることができ、これまでご支援を頂いた皆様には深く感謝申し上げます。

★昨年度はコロナ禍により開催も直前まで危ぶまれましたが第19回千葉いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート「いのちワンダフルワールド外山喜雄とデキシーセインツ」および第30回千葉いのちの電話2022年チャリティーコンサート「千年の時空を行き交う東儀秀樹の音楽世界」を無事開催することができました。いのちの電話の活動に応援いただいた演者の方々のとても充実したステージに、来場者も満足してお帰りになりました。
また、各所で予定しておりましたバザーはほとんど中止となる中、コンサート会場での販売が大きく貢献しました。

★イオン社会貢献事業「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加

2009年3月より、イオンマリニピア店にて参加しております。これは、参加している活動団体の中から支持する団体に黄色いレシート（毎月11日発行）を提供、金額の1%がその団体に（株）イオン様よりイオンギフトカードとして贈呈される仕組みです。コロナ禍で休止の店頭でのPR活動も復活し、2022年度は29,500円（累計723,800円）のご支援を頂いております。ありがとうございました。

2023（令和5）年度 コンサートのご案内

- ◆ 第20回千葉いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート
6月3日（土） 千葉市文化センター アートホール
細（尾形）晃子ソプラノトークコンサート「心に届く癒しの声」
- ◆ 第31回千葉いのちの電話2023年チャリティーコンサート
11月4日（土） 千葉市民会館
田中星児ほのぼのコンサート「みんなで歌おう」

■大口団体寄付（3万円以上）をありがとうございました。 敬称略
千葉銀行 千葉興業銀行 千葉信用金庫 小さな親切運動ちばぎん支部

社会福祉法人千葉いのちの電話 役員名簿 (敬称略) 2024 (令和 6) 年 7 月 1 日

顧問

佐藤 甫 夫 元千葉大学医学部 教授 山口 光 治 淑徳大学 学長
長谷川 匡 俊 学校法人大乗淑徳学園
理事長

理事長

友田 直 人 社会福祉法人千葉ベタニヤホーム 前理事長

理事

佐藤 俊 一 NPO 法人スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長 松崎 泰 子 元淑徳大学 教授
三橋 和 弘 社会福祉法人 一粒会 監事
斎藤 浩 一 千葉いのちの電話 事務局長 一般社団法人 日本いのち
清水 新 二 奈良女子大学名誉教授 の電話連盟 監事
高橋 宏 子 千葉いのちの電話ボランティア 水鳥川 洋 子 NPO 法人子どもセンター
林 倬 明 千葉県精神保健福祉センター 帆希 理事
センター長

監事

大森 薫 大森税理士事務所 所長 杉本 守 次 NPO 法人キッズパレット昭和
和小放課後児童クラブ館長

評議員

青木 一 芳 千葉YMCA 理事 鳩川 進 一 公益社団法人千葉市保健医療
因幡 和 久 医療法人グリーンエミネンス 事業団 常務理事兼事務局長
中村古峽記念病院 看護師長
今井 一 雄 今井法律事務所 弁護士 長谷川 昌 江 元千葉いのちの電話ボランティア
大賀 四 郎 NPO 法人千葉県精神障害者・ 長谷川 美 穂 公益社団法人 千葉県看
家族会連合会 理事長 護協会 常任理事
岸 憲 秀 千葉YMCA 理事長 花崎 みさを 社会福祉法人一粒会 理事長
鈴木 和 成 鈴木測量株式会社 取締役社長 宮崎 弘 志 千葉県労働者福祉協議会
鈴木 鉄 也 社会福祉法人千葉県社会福祉 矢澤 正 浩 千葉市社会福祉協議会
協議会 事務局次長・総務部長 常務理事
永 富 博 之 日本労働組合総連合会 吉松 靖 子 元千葉いのちの電話ボランティア
千葉県連合会 会長

尚、社会福祉法人千葉県共同募金会、一般社団法人生命保険協会千葉県協会は選任交替の手続きをさせていただいております。

研修専門家部会

上田 将 史 NPO 法人 志木市精神保健 佐藤 俊 一 NPO 法人スピリチュアル
福祉をすすめる会 理事長 ケア研究会ちば 理事長
木村 登紀子 聖路加国際大学 名誉教授 末松 涉 東京いのちの電話 理事長
桜クリニック 臨床心理士 西浦 加代子 元ルーテル学院大学付属
PCG カウンセラー

未

千葉県いのちの電話協会（後援会） 役員名簿（敬称略） 2023（令和5）年7月1日

顧問

白井日出男	元衆議院議員	青柳俊一	千葉興業銀行 取締役会長
淡路睦	千葉銀行 取締役専務執行役員	宮澤英男	千葉信用金庫 理事長
綿貫弘一	京葉銀行 相談役	大澤克之助	千葉日報社 代表取締役社長

相談役

阿部紘一	千葉県議会議員	堀江はつ	元千葉県議会議員
小川善之	元千葉市議会議員	米持克彦	千葉市議会議員
佐久間隆義	元市原市 市長		

名誉会長

安田敬一	公益財団法人安田教育振興会 理事長
------	----------------------

歴代会長

川島教昭	株式会社稲毛自動車教習所 代表取締役会長
------	-------------------------

会長

橋本妊壽奈	成田ユネスコ協会婦人部長
-------	--------------

副会長

鈴木和成	鈴木測量株式会社 取締役社長	吉成庸子	作家・エッセイスト
島田行信	学校法人市川学園 理事		

理事

天野和子	千葉いのちの電話活動ボランティア	齊藤朝江子	有限会社エダブン 代表取締役
新井隆太	アラックス株式会社 代表取締役社長	重宗光子	千葉いのちの電話相談ボランティア
遠藤宏之	株式会社シティハウス 代表取締役	友田直人	社会福祉法人千葉いのちの電話 理事長
日下忠文	日下医院 院長		千葉ベタニヤホーム 前理事長
	元千葉いのちの電話 理事	豊田重俊	有限会社豊工業 取締役
栗栖美千夫	東日本旅客鉄道株式会社 千葉 支社 鉄道事業部 指令・サービス 品質改革ユニット リーダー	山口悦子	千葉いのちの電話活動ボランティア

監事

大森薫	大森税理士事務所 所長
-----	-------------

ご支援のお願い

●あなたのご支援を必要としています

千葉いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。24時間365日眠らぬダイヤルの維持や建物管理、研修生の訓練や相談員の継続研修、広報活動などのために、年間約2,000万円の経費が必要となっております。

現在、全国の自殺者は警察庁の発表によると令和4年は21,881人、千葉県内では994人になっています。「死にたい!」と訴える相談者のこころは、「生きたい! 助けて!」です。その声に寄り添うために、一人でも多くの方に資金ボランティアとして千葉いのちの電話を支えてくださいますようお願い申し上げます。

●ご寄付の税額控除について

千葉いのちの電話では、平成24年10月11日から税額控除が受けられるようになりました。税額控除証明書を領収書と一緒に印刷しておりますので、確定申告の際にはどうぞご活用下さい。詳細は事務局までおたずねください。

●維持会員、寄付者会員になってください

- ◆個人会員 年額1口 2千円 (何口でも)
- ◆団体会員 年額1口 1万円 (何口でも)
- 上記の額を毎年継続して納入して頂ける個人や団体
- ◆寄付者会員 この社会福祉法人の主旨に賛同して頂き、寄付金を納入していただける方、金額は問いません。

《お振込は下記のいずれかをご利用ください》

- ・郵便振替 / 00110-0-366563
<加入者名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話」
- ・銀行振込 / 千葉銀行 県庁支店 004 (普) 2115973
京葉銀行 本店 080 (普) 8897411
千葉興業銀行 千葉支店 111 (普) 6182171
千葉信用金庫 本店 001 (普) 0580786
<口座名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話 理事長 友田直人」

社会福祉法人 千葉いのちの電話 事業案内

発行日 2024年7月1日
発行者 理事長 友田直人
事務局 〒260-0012
千葉市中央区本町3-1-16 CIDビル
TEL 043-222-4416
FAX 043-227-6911
<https://www.chiba-inochi.jp>
E-mail ll-chiba@chiba-inochi.jp

エルエル



